

検査項目について

| 検査項目 <単位> | | 基準値 | 受診勧奨 判定値* | 要受診 | この検査でわかること |
|-----------------|-----------------------|----------------------|---------------------|----------------------|-------------------------------------------------|
| BMI* (身長・体重) | | 18.5~24.9 | | | 身長と体重の割合で、肥満か否かを判定する。 |
| 腹囲<cm> | | 男性85未満 女性90未満 | | | 内臓脂肪型肥満の疑いがあるかどうかを調べる。 |
| 血圧<mmHg> | | 収縮期130未満 拡張期85未満 | 収縮期140以上 拡張期90以上 | 収縮期160以上 拡張期100以上 | 血圧が高いと動脈硬化が進行し、脳卒中の危険性が高まる。加齢とともに収縮期血圧が高くなりやすい。 |
| 血糖 検査 | 空腹時血糖 <mg/dL> | 100未満 | 126以上 | 126以上 | 血糖とは血液中のブドウ糖のことで、糖尿病発見の手がかりとなる。 |
| | ヘモグロビンA1c <%> | 5.6未満 | 6.5以上 | 6.5以上 | 長期間の血糖コントロールの目安となり、糖尿病検査として重要となる。 |
| 血中 脂質 検査 | 空腹時中性脂肪 <mg/dL> | 150未満 | 300以上 | 500以上 | 増えるとHDLコレステロールが減少する。増えすぎると肥満や脂肪肝の原因になる。 |
| | 随時中性脂肪 <mg/dL> | 175未満 | 300以上 | 500以上 | |
| | HDLコレステロール <mg/dL> | 40以上 | | | 値が高いほど、動脈硬化や心臓病になる危険性が低い。 |
| | LDLコレステロール <mg/dL> | 120未満 | 140以上 | 180以上 | 増えすぎると、血管壁にたまり、単独で動脈硬化を進行させる。 |
| 肝 機能 検査 | AST(GOT) <U/L> | 30以下 | 51以上 | | これらはトランスアミナーゼといわれる酵素で、特に肝臓の異常発見に大きな威力を発揮する。 |
| | ALT(GPT) <U/L> | 30以下 | 51以上 | | |
| | γ-GT(γ-GTP) <U/L> | 50以下 | 101以上 | | 主に肝臓や腎臓、膵臓などに含まれる酵素で、肝臓や胆道に障害があると増加する。 |
| 尿 検査 | 尿糖 | (-) | (+),(++),(+++) | | 糖尿病で血糖値が異常に高い状態が続くと尿に糖が出る。糖尿病発見の手がかりになる。 |
| | 尿蛋白 | (-) | (+),(++),(+++) | | 腎臓の病気を見つける手がかりになる。 |
| 腎 機能 検査 | クレアチン <mg/dL> | 男性1.00以下 女性0.70以下 | | | 腎機能が低下していると高値になる。 |
| | 尿酸 <mg/dL> | 2.1~7.0 | | | 痛風発生の危険性が分かる。 |

※BMI = 体重(kg) ÷ 身長(m) ÷ 身長(m)

※受診勧奨判定値…(必要に応じて)医師の判断により受診をお勧めします。